

第66号
 発行日:令和2年5月1日
 発行所:東京青山同窓会事務局
 〒111-0032
 東京都台東区浅草 3-8-2-1101
 工藤 義夫 (74回)
 e-mail:info@tokyo-aoyama.org
 TEL : 090-1704-2413
 HP:https://www.tokyo-aoyama.org/
 発行者 日下部朋子 (82回)

東京会報

東京青山同窓会
 -東京青山同窓会年間維持費-
 1口1,000円/2口以上(年間)
 会計幹事:川上康夫(79回)
 振込先:極力①をお願いします。
 ①郵便振込口座 00150-9-4074
 加入者名 東京青山同窓会
 ②三井住友銀行京橋支店 普 8430640
 東京青山同窓会 会計幹事 川上康夫

◆お知らせ ; 6/20 総会・新人歓迎会 → → 秋以降に延期
 (コロナ解除? まで!) ... 不要不急?、“三密(密閉・密集・密接) / 三高(声・唱・飲)”回避 ...
 ~ 新人・学生の皆さま、社会人の皆さま アフターウイルスにてお会いできるようお願いしています ~

令和初「第4回・ますらお会」,「拡大幹事会」報告 ~ 2019.11.30(土)
 ◆秋のカジュアル懇親会◆ と ◆来年度総会歓迎会90期主催~以降各期順次主催へ◆ 記・工藤義夫(74期)

◆ますらお会 ◆11.30・16~19時
<番屋・有楽町店>

秋恒例の“カジュアル”同窓会=ますらお会も令和に改元後の最初の集い。今回で4年目を迎えた。11月最終30日の土曜の夕べ有楽町の個室居酒屋「番屋」に18歳~80歳までの老壮青男女35人が顔を見せた。

4年前まで同窓会は年2回(6/11月)の開催が諸事情で年1回とした際、若手122期・田中麟太郎君が秋もやりたい!と声をあげ、それを森豊君等90期が拾って、秋はくつろぎの場としての“ますらお会”となった。春の総会・新人歓迎会に出られなかった方々にとっても青山人たちの出会いの場でもある。

そういう経緯で、主催は壮青2名の幹事“もりりんたろう”こと(上記・森豊&田中麟太郎両氏から)となり、味わいのある会に...

佐藤信秋会長も冒頭挨拶に見え、長老の山本和親氏(65期)の乾杯で3時間の在京青山会が賑わしくスタート。司会の森豊氏から、今回特に若手達には自己紹介込みの挨拶に立ってもらった。田中麟太郎君は今春就職(日本プロ野球機構)。新人127期・渡邊真子(上智大)さんはフレッシュ、125期・長谷川健君(東大3年)、は学業、122期・加藤爾君(東大医6年)は4月から新潟市民病院で研修に(今後も都合がつけば東京会にも出たいとか)。113期・内藤美沙紀&佐藤友恵(新潟から参加)の女子コンビも。同窓会初参加の105期・星野洋昭氏等、それぞれ“いま”を話してくれた。

また、所用で終了間際にかけてつけた105期・成澤良(NHK)氏もひとこと...職場に青山後輩女性(白井綾乃・117期)あり。随所に青山人の存在を知る機会もあるというもの。

かくて3時間はワイワイがやがや飲み放題で食し語り過ぎ行く。時は熟し、さあ威勢よく校歌・応援歌の出番というものだ。春の同窓会で“にわか応援団長”になった125期・長谷川健君の音頭で会場の外まで歌声が響きわたる。みな、それぞれに上京してから何(十)年が過ぎ、故郷新潟への想いは忍ばせつつ、いつしか在京の身に浸り切り、激変する首都圏をしぶとく生き抜いた顔がある。集合写真にて漸く、一次会を散会。

引き続き近くの東京フォーラム地下のBARで二次会。十数名が遅くまでワンテーブル(ONE TEAM)でお喋り。仕事で出遅れ120期・宮本真理子君は先ずは食を。気がつけば22時だ、師走間近の風もなぜか心地よい。

◆同窓会「新スタイル」~
2020.6.20(土)昼タイム
90期主催~以降、卒回リレー
<4hr・立食主体 & 一部着席>
 ・総会参加費・事前振込導入
 原則:~60日前迄(振込用紙等)
 (会報/ホームページ/email等で周知)
当日会場払:上記事前費+1千円

◆拡大幹事会 ◆11.30・15~16時
<TKP銀座ビジネスセンター店>

ますらお会の1時間前、貸会議室にて90期~127期までの連絡を試みた学年幹事など男女の有志16名が参加した。

今年から総会・新人歓迎会の主催と継承を、事務局からお願いし議論した。毎年各期順番に主催し、事務局はサポート役に。

~先ず今年、お手本で90期に。
 続いて翌年は<91~99期連合>。
 ~以降、当面は<順次2期連合>
 で進め修正も。将来は各期毎へ。

次いで、次回主催の90期・森豊幹事から次回段取り等を説明。

各期幹事には在京同期生を探し出し連絡し準備してもらおう。各期生は一生に1回、同期生も結集して東京同窓会主催の伝統を引き継いで行きたい。ご協力をお願いする。

91期~123期の事務局dataは殆ど不明。各期ともSNS等も利用し何とか連絡を願う。110期などは同期のアドレスを集めている。今年も秋に、また各期に呼びかけてみよう。

◆会議場 → TKP銀座 ビジネスセンター (銀座8丁目)



<ますらお会>
 番屋・有楽町店
 2019.11.30(土)



<拡大幹事会>
 2019.11.30(土)
 別会議室



◆同窓会「主催期表(案)」

- ・2021年;<91~99期共催>
- ・2022年;<100 & 101期>
- ・2022年;<102 & 103期>
- ・2022年;<104 & 105期>
- ・2022年;<106 & 107期>

... 将来、
 毎年 各期毎に? ...

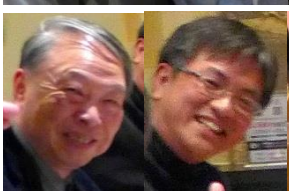
2019年度「第4回・ますらお会」と「拡大幹事会」～ 2019.11.30

◆秋のカジュアル懇親会◆ と ◆来年度総会歓迎会90期主催～以降各期順次主催へ◆ 記・工藤義夫(74期)

<ますらお会> 18歳から80歳まで ～ 番屋・有楽町店にて

応援歌《ますらお》 斉唱 ...

長谷川健君(125期) リードにて



◆注)新型コロナ禍 → 秋以降に延期◆

2020年度 総会・新人 128期 歓迎会 ~“90期”主催

日時	(2020) 令和 2年 6月20日 (土) 受付開始; 11時~、開会; 11時半 開催時間; 11時半~ 15時半 <4時間!> (フリードリンク; 11時半~15時)
会場	日本プレスセンタービル10F レストラン「アラスカ」 千代田区内幸町2-2-1 TEL. 050-5589-8667 ◆事前振込制(振込票) (振込締切後は下記+1千円)
会費	男性; 7,000円 女性; 5,000円 学生; 3,000円 新人; 2,000円 (128回卒) ☆別途年会費納付も納付可(2千円)☆
その他	◇総会・新人歓迎会◇ 高校長旧3年担任、青山同窓会役員様ご出席予定 ◇懇親会◇基本は立食ビュッフェ形式 → 別途、着席も一部用意します。

延期

新人の皆様
お待ちしております

HOLD



◆変わります! 東京同窓会◆
~新たに始まる~ # TOKYO WITH YOU ~
2020.6.20“(土)昼” 11:30 ~ 15:30
レストラン 《アラスカ》
「90期・主催」以降, 卒年次リレー
〈受付会計, プログラム, 司会, イベント, 講演等 担当〉

(参加費; 原則振込10日前まで/以降~当日は+1千円)
... (受付の混乱回避、食事数事前申込等のため)
詳細; 会報郵送者には「事前申込・振込用紙」同封。
他は、HP & Email 等で周知 <指定口座振込>



◇ イベント ほか ◇

◆ 講演 or 音楽 ほか ◆

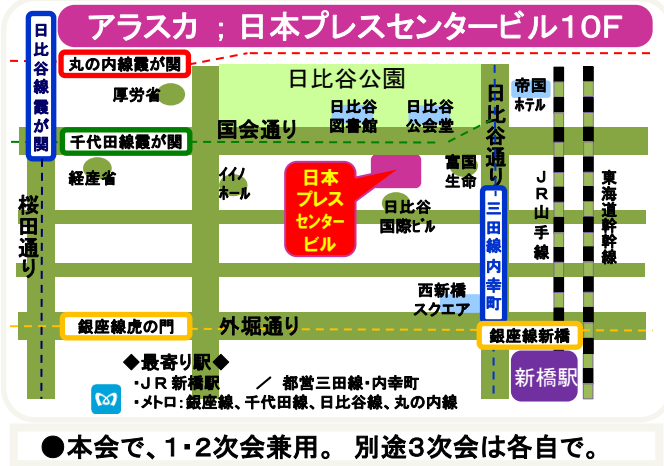
テーマ; 『
(
★ 横顔紹介 ★

米俣

★128回卒の新人の皆様へ
・新住所の届け未了の方は実家へご案内を 郵送しました。
転居先のご連絡・電話・e-mail変更時は事務局にご連絡を
・郵便は必ず読みと出欠等をe-mail等で送信願います。
次回から、基本は e-mailでの連絡に切り替えます。

①新; 総会参加・振込用紙
事前 6/10締切 / 以降~当日; 事前+1千円

②継続; 年会費振込用紙



★今後の同窓会(案)★

- ・2021年; <91~ 99>期 共催
- ・2022年; 100 & 101期 共催
- ・2023年; 102 & 103期 共催
- ・2024年; 104 & 105期 共催
- ・2025年; 106 & 107期 共催

以降、単期で主催へ! ???

2021年度総会・新人(129期)歓迎会 6月19日(土)昼 ~ 主催(91~99期・共催)
予定; 2020年カジュアル「ますらお会」第5回 ~ 11月(場所/曜日/時間; 別途)

会長挨拶

東京青山同窓会会長 (第十代)
佐藤 信秋 74期



会員の皆様には、ご健勝でご活躍のことと存じます。昨年
は全国至る処で、大変な災害続きで、我が新潟も村上が地
震に襲われました。また、この冬は今のところ、小雪と新型コ
ロナ肺炎の影響でスキー場も閑古鳥、地域経済に打撃を受け
ています。

ただ、「住んでよし、訪れてよし」の新潟づくりを目指して奮
闘している花角知事(85回卒)は厳しい財政状況に立ち向か
い果敢に闘っています。皆でできる限りの応援したいです。

新潟の良さ、実は山のようにありますよね。宣伝広報が今
一つでした。20年程前全国をよく知っている筈の、かつての
国土庁のトップだった人が、「新潟に行ってきたね。酒はうま
かったが冬なので食べ物はありがたかったね。」と言いま
した。「あれ、冬はカニは安くて旨い。味は越前ガニ、松葉ガニ
と一緒にすよ。」と私はズワイガニを届けたことがありました。

ふる里納税も、UIターン等も、新潟の良さを一大活動をし
て、全国のトップを目指して、皆で応援しましょう。

年度「拡大幹事会」開催

≪次年度以降 同窓会主催等の確認≫

2020.11.土(ますらお会開催前1hr)

～今後の対象期代表

◆91～128 各期学年代表幹事◆

令和元年度決算 および 令和2年度予算

(H31年4月1日～R2年3月31日)

令和2年3月31日現在 (金額:円)

摘要	令和元年度 決算 (H31.4.1~ R2.3.31)	令和2年度 予算 (R2.4.1 ~R3.3.31)	備考 (令和元年度分)
期首現預金残高	2,104,673	1,824,668	
収入			
年 会 費	964,000	800,000	400人; 前期*0.9
総 会 費	703,500	500,000	総会兼新人歓迎会 (会場変更; 100人)
本 部 補 助	100,000	100,000	
雑 収 入 計	70,000	60,000	
受 取 利 息	18	11	
合 計	1,837,518	1,460,011	
支出			
総 会 費 用	846,000	800,000	総会兼新人歓迎会 (アラスカ・Pr.Off)
第5回ますらお会補助	107,676	50,000	
会 報 通 信 費	989,271	900,000	2回分; 郵送数減。 印刷等; 外注一内製
事 務 局 費	80,000	80,000	人件費、出張費等
ホ ー ム ペ ー ジ (サーバー費用)	0	16,000	2年度分(R1 & R2) サーバーレンタル料等
会 議 費	30,190	30,000	会議2回
手 数 料	64,386	40,000	
雑 費	0	1,000	
合 計	2,117,523	1,917,000	
期末現預金残高	1,824,668	1,367,679	

注1) 新・会計年度期間: 2020年度 (R2.4.1~ R3.3.31の1年間)

★ 事務局からのお知らせ ★

年会費「振込口座」卒期・氏名

- 郵便振替口座; 極力こちらで振込願います
00150-9-4074 東京青山同窓会
- 三井住友銀行; 京橋支店
普 8430640

会計幹事 ; 川上康夫 (79期)

事務局“よろず”相談窓口

事務局長 ; 工藤義夫 (74期)
e-mail ; 事務局 info@tokyo-aoyama.org
個人 plutarchoshannibal@yahoo.co.jp
Mobile ; 090-1704-2413

♪会報寄稿依頼; 同期会、部会、スポレク、趣味、旅行
などフリー。400~800字、写真も。自薦・他薦も。

★ 東京青山会ホームページ ★

~5月新画面再登場~カラーでタイムリー!
案内、問合、他 Archives等も (制作: 渡邊修也氏・90回卒)
HP ; <https://www.tokyo-aoyama.org/>

★探してます! 古い東京会報★

~第1~11号と第17号ありませんか?~
ほか(~最新64号)は東京HPに掲載します。
事務局・工藤義夫

~ お知らせ ~ 注)火曜会はコロナ状況次第に

- 事務局通信: 住所リストは事務局へ (注: 不明者多し)
- ◆偶数月第二火曜の会: 有志定例飲会。都度、案内
2020: 4/14, 6/9, 0/13, 12/8 ~ 2021: 2/9, ~~4/13~~ (18時半~)
場所例 ◇吉池食堂・上野3-27-12 / 03-3831-0141
◇バル・ペルカーソ; 神保町1-20 (イタリアン)
- Web : ◇東京: <https://www.tokyo-aoyama.org/>
◇本部: <http://www.aoyama-dosokai.com/>

● 2019年度「火曜会」ほか ; スナッフ ~



2/12 新年会 (神保町・ペルカーソ)



76回卒・東京同期会報告“古希記念”;次回2~3年後

記・西沢芳樹 76期

われら昭和43年卒(76回生)の東京同期会は、①第1回目に卒業15周年(100名)にて開催以降、②卒業30周年(90名)、③卒業40周年(69名)、④ほぼりタイア記念(73名)、⑤全員66歳記念(68名)として、過去5回開催してきました。今回6回目となる「古希記念」を、令和元年11月9日午後1時から御茶ノ水の東京ガーデンパレスにて開催しました。

当日は、首都圏以外から新潟9名、札幌・名古屋・神戸から各1名の遠方参加者を含め65名(うち女性12名)が参加し、前回から3年ぶり、さらには卒業以来の再会もあり、懐かしい声があがっていました。風貌は髪が白かったり薄かったりなどはありますが、多くは「変わらないな！」の声でした。なお古希記念同期会は今年3月に新潟で

の開催(母校新校舎訪問含む)があり、その際の新潟在住者から東京同期会への参加希望表明もあり、今回の参加につながりました。

同期会は、判明物故者44名(卒業生516名)への弔意表明、東京青山同窓会現状報告の後の乾杯を経て懇談となりました。2時間の開催時間の中、1人1分間としても全員の近況報告は難しいと考えましたが、参加者の協力のもと全員のひとこと報告を行うことができました。幹事としてやはりこれは必須のアイテムと再確認しました。最後に応援歌(丈夫)斉唱、集合写真撮影を行い、次回開催を2~3年後に約して同期会閉会としました。

さらに1次会では会話時間が取れないことから2次会を午後3時半から御茶ノ水駅近

くの店にセットしており、徒歩移動にて44名(約7割)が参加し、旧交を温める時間を共有できました。名残惜しく3次会も20名ほどで開催しました。

今回も参加者の皆さんから開催に対し感謝の言葉をいただき、幹事としての喜びになりました。76回生の東京同期会が継続できているのは、10組のクラス幹事12名が、開催前の企画会集合、名簿確定作業、当日運営担当などと、同期生の方々が喜んでくれることに、ボランティア精神を発揮してくれていることです。われらが元気なうちは今後も開催していく予定です。

なお幹事会は打上会開催予定で、それも幹事の楽しみになっています。

幹事代表 西沢芳樹



「90期・東京同期会」と「6月の東京同窓会・主催」

記・森豊 90期

<同期会;2年ぶり>

◆第5回を数える90期東京同期会は、2019年8月24日(土)に御徒町の吉池食堂を会場に開催されました。2018年は新潟で5年毎の90期同窓会開催につき東京会は見送り、2年ぶりの顔合わせに50人超が参加しました。

恒例アトラクションは高校時代の流行歌のイントロ当てクイズ。若干の機材不具合が発生したのはご愛嬌ということで何とかやり通しました。また座席を高2の時のクラスに分けてみました。しかし高2の自分が何組であったか記憶にない方も数名いたのは、時の流れを切に感じさせる事象でありました。

さて90期の団結力は相変わらずですが、その我々には2020年6月20日(土)開催予定の東京青山同窓会の運営を仕切る、というミッションが与えられておりました。そこで万年幹事(森)は同期会挨拶で参加の皆さんに、次回東京青山同窓会への出席と協力をお願いさせていただきました。◆

<6月・東京青山総会の90期主催への取組>

◆東京青山同窓会は近年いくつかの変化に見舞われました。

年2回(6月の新人歓迎会、11月の総会・懇親会)の開催を年1回とし、さらに会場も、赤坂ANAホテルから日比谷アラスカに変更。「東京会報」のメール配信開始、同窓会ホームページのリニューアルなど、財務体質の改善と。同時に、より参加しやすい同窓会にしたい、という努力を重ねているところです。

そして今回、例年金曜日夕方の開催であった同窓会総会・懇親会を土曜日の昼間開催に移行。なお、かつ、以後、卒業年次に従って総会懇親会運営を担当することになった。そして、

その記念すべき第1号が我々90期であることを強調致しました。

ということで、2020年の東京青山同窓会に向け、90期の英知と行動力を結集し、同窓の皆様をお迎えしたく存じます。何卒ご期待ください。

ハードルを上げてしまいましたが、同窓会無事終了後、反省慰労会と称して第6回の90期東京同期会を二次会的に開催する予定です。同期にはこちらもお楽しみ頂けるよう、幹事団、一層頑張ります。◆

注) 今秋以降へ延期!

延期

◆Produce 90!
東京青山同窓会◆

2020.6.20(土)昼
レストラン「アラスカ」

「90期・主催」



以降、卒年次リレー

“2019夏・在校生東京研修レポート(抜粋)” ~11ヶ所訪問~

~ 東大(模擬講義含)、財務省、総務省、清水建設、JAL、日本IBM、大塚製薬、共同通信社、三菱商事、サッポロHDGs、JA(全農) ~

各研修先で 青山OG,OB等にご案内していただきました!

◆ JAL・日本航空 ◆

社員の方からのお話の中で特に印象的だったのは、仕事はチームプレーで、自分がチームのために何ができるかを考えることが大切だと言うことです。自分自身、将来はリーダーとして社会の役に立ちたいと思っているので、どのような点が自分の強みか考えていこうと思いました。また、JALが一度つぶれて再起した際に意識したいくつかのことも印象的でした。違う部門がばらばらの方向でなく、一つの方向を向くことが大切なのだ強く認識しました。実際に整備している現場の見学を通して、やはりJALの社員の方々の安全に対するこだわりと覚悟をひひしと感じました。「最高のパトナッチ」という言葉はどのような場面でも通用すると思うので、是非取り入れていきたいと思いました。



◆ 三菱商事 ◆

服部さんのお話の中で最も印象に残っているのは、コミュニケーション能力を高めるには、自分の言いたいことを相手の立場を考えて受け入れてもらえるように伝えることが大切だということです。僕自身、相手に誤解されたり自分が誤解したりした経験があるので、このことは特に大事だと思います。また、三菱商事という会社全体が三綱縷をしつこく強調しているという点も印象的でした。その中でも、「所期奉公」という精神は、新潟高校の「社会貢献」にも通ずるところがあって、そこを追求してゆくことが社会の役に立つだけでなく、商機を見つけることにも役立つのだと感じました。三菱商事が新入社員に求める4つのことを意識して、「信頼できる」、「一緒に働きたい」人間になれるようにしたいと思います。



◆ 日本アイビーエム ◆

日本IBMという、ITのイメージが強かったが、戦略やビジネス・ITのコンサルタントを行っていることが分かった。AIの利用については、実際の展示を使って体験することができた。特に、ツイッターによく出てくる単語を画面に示すのがすごいと思った。その単語を書きこんだアカウントの数やフォロワーの多さだけでなく、その人の性格も視覚化されていたのでとても分かり易かった。AIを工夫して用いることで、様々な形で人間のデータを集めることができるということが分かった。AIの知能は人間の知能の代替ではなく拡張であり、AIを人間がうまく使っていくためには、その時のトレンドや倫理感をよく理解してゆく必要がある。また、基礎学習も重要で、そこからより高い人間性がつくれる。



◆ 共同通信社 ◆

ニュースをつくる過程では、取材・記事のメモ、編集・写真・グラフィックス・動画など様々な要素が必要になってくるため、各部室での連携が大切になる。社内の構造が吹き抜け状態になっているため、移動しなくても声である程度のやりとりができ、効率よく作業できるようにになっていた。急速に多メディア化が進む現代において重要なのは、自分だけのデータが今後どうなっていくのか分からないということを理解すること。二次・三次情報としてデータが移動していく中で、それらが自分達の意図した使われ方をされなくなってしまう可能性もあるため、情報の一部が切り取られても分かりやすいものにするなど対応する必要がある。誰もが簡単に情報を手に入れたり発信したりできるため、全ての人が情報を使う側であるという自覚と責任を持つべきであると考えた。



◆ 総務省 ◆

総務省は国の仕事を行っているので、身構えていたが、記者会見が行われている場所に入らせていただき心遣いは感謝しなければいけないと思った。附属新潟中学から新潟高校に進学したということで異なる境遇ながらも「先輩」という意識を強く持ちお話を聞いた。特に印象に残っていることは、「国民のために働きたい」という思いから総務省に入省したエピソードについてだ。私だったら就職して人間関係に恵まれていたら自分の夢よりも安定を求めてしまうと思った。しかし、霞が関の雰囲気や忘れられず、自分の夢を追って総務省に入省したという姿に憧れ、尊敬の念を抱いた。自分の描いたイメージを忘れずに実現させる生き様に、私もそうなりたかったと思った。



◆ JA・全農 ◆

貴重なお話をありがとうございました。本日のお話を聞いて、全農が行っている事業の種類の数にとても驚きました。農業に関わるといっても、沢山の方面からの関わりがあるということを知ることができました。私は日本の食糧自給率や廃棄といった問題がとても気になっていました。ヨーロッパと日本の農業についての教育の量に大きな差があるということに驚きました。また、私は海外での仕事や英語を使う仕事に憧れていて、実際にどのようなスキルが必要なのかを知ることができて良かったです。しっかりと英語を勉強しようと思いました。驚いたことは若者の新規就農者が増えているということです。若者の就農者支援やAIやITを取り入れてこれからの時代へ向けた取り組みを知ることができて、これからの日本の農業がどうなるのか不安でしたが、安心することができました。またこれから私達が社会で生きてゆくために大切なことを沢山教えて頂くことができ、うれしかったです。私も困ったときは原点に戻ることを忘れずにこれから頑張りたいと思います。ありがとうございました。



◆ 清水建設 ◆

今回清水建設様を訪れて実際に目で見たり体験できて良かったと思います。ありがとうございました。建設業について全然知りませんでした。建設会社は街・人・暮らしの空間をつくるため、私たちの暮らしに大きく関わっています。特に住宅街に建設物をつくる時、風に気を配りとても気が細かいことに驚きました。それほど厳密に暮らしを支えていることに感謝します。大きなオフィスビル建設時は地球温暖化抑制のため設計を配慮し、必要エネルギーを60%も減らすとのこと。特に空調や照明のエネルギー削減に留意することで世界の貢献しています。また秒速30mの体験で自然の威力も実感しました。そして一番の印象は空中都市計画です。海面上昇で困る人々を救うため、海上1000m高さに都市をつくるというのは正直想像できませんが、着実に計画が進行中で、完成を見たいと思います。日本人だけでなく世界中の人々に貢献している思い、自身も将来社会に貢献できるようになりたいです。



◆ 大塚製薬 ◆

私は将来、医師になりたいと考えています。今回、実際に医療に関するお話を多く聞くことができて良かったです。大塚製薬様は世界の人の健康を含むサポートしているのだと感じました。また最も驚いたのは、貴社の製品名として有名なポカリスエットがはじめは人々に知られなかったということです。...としても有名で、私もよく飲ませていた思い出があります。私は熱中症になりかけたことがあり、ポカリスエットをもらったとても元気になりました。貴社の説明にもありましたが、初めから認められなくても、必ず役に立ち、貢献するという商品は自信を持って紹介することは非常に大切なことだと感じました。そのような製品が実際に多くの人々を救い役に立っています。凄いなと思いました。またお話を聞いて、薬の開発は簡単にはできないのだとあらためて感じました。命に関わるものであるから多くの審査を経なければいけないことは想像していましたが、薬の成功確率の低さには衝撃を受けました。しかし厳密な審査があるからこそ安心して利用できるのだと思います。人々に貢献したり役に立つためには、お金と手間がかかりますが、だからこそやりがいがあるんだと思います。世界に進出しているいろいろな国でいろいろなやり方で健康をサポートして貴社はすごいと思いました。私は将来、医師となって人々を救いたいと考えています。今できることを考え、将来のことも想像しながら、高校生活を過ごしていこうと思います。



◆ サッポロビール HDGs ◆

貴重なお話をありがとうございました。貴社が行っている様々な活動や歴史そして営業部門の詳しい仕事内容について知ることができてとても良かったです。貴社が小児がんや被災地支援などの情報を発信することで、多くの会社へ呼び掛け効果があり、みんなで支援ができるというお話が心に残りました。商品開発や商品販売だけでなく、様々な活動があるところがとても魅力的でした。また私たちの質問ひとつひとつ丁寧に回答をいただけてとても嬉しかったです。貴社の歴史では、中川氏の人生やビールが昔どのようなものだったかということを知ることができました。またサッポロホールディングス様の歴史の長さに驚きました。私は新発田市に住んでいるのですが、大倉喜八郎もサッポロビールの歴史に関わっていた



ことが分かり、とても興味深かったです。田中様のお話から、沢山の営業の仕事やポイントについて知ることができ、自分の将来の参考にさせて頂きたいと思いました。本当にありがとうございました。

◆ 東大模擬講義 ◆

・生物/遠藤教授;カンブリア爆発という生命の急速な大発生、化石から年代や生物の進化など詳細がわかると。バージェス頁岩動物群から古生物の世界が広がると。ナメクジの研究も楽しみです。
・文学/野崎教授;人間としての根本的な「言葉」という学問を知り考えの幅が広がりました。英語中心主義は 世界の多様性や豊かさが失われると、文系でもコンサル系やIT系への就職も多いと。
・地震/吉田教授;プレートのごくどこでも発生するわけではなく、アスベリティと呼ばれる場所でも起こり、GPSでは陸から遠い領域はよくわからないと。
・理学部/武田教授;公式を使いこなすというよりは公式はどのように導かれ、何を表しているのかという物事の真相を学ぶと。理学部は自然の原理について深く学ぶところと。また、留学生にも八ヶ国対応など受入環境も充実。
・他;東大が女学生が少ないのはなぜかなど疑問。



◆ 東大青山会との座談会 ◆

1, 2年生時は自由に学べる仕組みがあり、その後、好きな分野を学べ、将来の選択ができると聞いた。また、先輩達は高校時に運動部所属も多く、勉強と部活との両立のコツを聞いた。日本一だから、日本一の仲間に出会いたいとの志望の動機もあったと。向上心や、時間を上手に切り替え集中することが大切と。また、授業の内容だけでなく基本的には大丈夫だと聞いた。好きな分野のほかに、苦手な分野もしっかり把握し克服すること。

◆ 財務省 ◆

国家公務員に興味があり話が聞けて良かった。昨今いろいろ問題があって財務省・国会・内閣へのイメージは良くなかったが、今回、現在の具体的な課題解決のため日々奮闘していることを知り、また能動的な行動が様々な成果を得ていると。指示は出す方も受ける方もそれぞれ責任があること。対話なども通じて論理的で伝わりやすい設営を心がける。日本を支える必要な仕事がかっこいいと思いました。



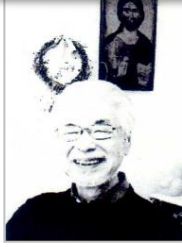
◆ 訪問先企業名と各ご案内者 ◆

- 敬称略;(数字)卒回。(一)青山以外。
 <赤下線=新規> **名;参加者数
 <2019.7.25(木) 午前 >
 ・財務省 : 佐野美波(一) 40名
 ・清水建設(株); 吉井正行(86回) 38名
 ・JAL(株) : 岡村信之(92回) 30名
 ・日本IBM(株); 坪井俊樹(90回) 30名
 ・サッポロビール(株); 小野様(一) 30名
 <2019.7.25(木) 午後 >
 ・共同通信社; 由藤庸二郎(87回) 40名
 ・三菱商事(株); 三浦 豪(121回~?) 50名
 ・大塚製薬(株); 西岡由紀(一) 31名
 ・JA(株) 全農; 住吉弘臣(88回) 22名
 佐藤 晃(104回)
 ・総務省 : 酒井優理子(110回) 25名

“2019年・褒章記事” ～ “2019年・大学生たちの言葉”

(編集・事務局)

秋褒章・令和元年;土橋晃氏62期)
～ 更生願い受刑者と対話 ～
2019.11.2 読売



秋の褒章で都内78人が発表。中で、藍綬奉書を受賞された豊島区の教諭師、土橋晃氏83歳に喜びの声を聞いた。青山62期の牧師さんである。府中刑務所で受刑者と対話をする教諭師の仕事を務めて約30年。「この活動が少しでも多くの人に知ってもらえるきっかけとなればうれしい」。穏やかな口調で喜びを語った。

公益財団法人「全国教諭師連盟」によると、国内の100を超える宗派などから推薦された宗教家約1800人が現在、教諭師としてボランティアで活動している。自信は日本キリスト教団の牧師。これまで受刑者延べ2000人以上と対話を続けてきた。

新宿を根城にしていたヤクザ、殺人犯、薬物依存症の患者一。対話してきた面々は様々だ。面会時間は1回当たり約15分。受刑者の経歴は事前に教えられないまま相対し、個人的な手紙のやりとりも禁じられている。その中で、「自分を愛するように隣人を愛せよ」という聖書の言葉を引きつつ「自分を大切にしてほしい」と語りかけてきた。

重ねた言葉が心に響いたのか、刑務所で洗礼を受けた受刑者もいる。「私ができるのは種をまき、水を与えることくらい。植物が成長するかは神様次第なんです」。受刑者の更生を願いながら、今後も地道な対話を続けるつもりだ。

褒章受章者: 年齢は11月3日現在。
藍綬褒章; 土橋晃・豊島区(教諭師)

「フィンランドの教育現場から」
～現地校でアシスタントティーチャー～
慶応大外国語教育学卒/2020.4就職
野口 実里 (123期)

大学では外国語教育学を専攻しており、世界一の教育と言われているフィンランドの教育に関心を抱いておりました。その教育現場を自分の目で見たいと思い、大学3年の冬から翌夏にかけて休学し、現地の小中一貫校にてアシスタントティーチャーとして働いてきました。

実際は、日本と異なる文化で生きること、学生ではなく社会人として受け入れられていたこと、教育現場で働くことなど悩むことの方が圧倒的に多い半年間でした。しかしその中で学ぶことも多く、業務を通じて最も印象的だったのは、「真の学びは自分自身で見つける」ということでした。フィンランドの学校ではどの学年・教科でも前半の時間が教師による講義で、後半は生徒自



<現地空手教室の友人達> <2019.6.21 総会>

によるワークのための時間でした。ワークの時間があることにより、教師は生徒の課題の取り組み方を把握することができます。つまり各々の得意不得意や取り組む姿勢を知ることが出来るため、個々のサポートが可能になるのです。

この授業スタイルを目の当たりにし、フィンランドの教育では自分で考え答えを導くことに重きを置いているのだと強く感じました。学習結果だけではなく、その過程を評価していることが世界一の教育であるひとつの理由なのではないでしょうか。もちろん受験制度や教師対生徒の人数比、国の教育制度など様々な状況が異なるため、単純に日本と比較することはできません。しかしながら、これは現地での私の働き方にも通じるものがありました。指示を受けて動くことではなく、状況を見て今何をすべきか自分で考え動くことが求められていました。おそらく4月からの新生活でもこの姿勢で働くことが重要なのではないかと思います。

フィンランドの教育現場で、そしてこれまでの学生生活で学んできたことを胸にこれからは社会人として精一杯努めて参ります。今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

「東大で学ぶ～知の体系を創る」
～東大前期教養課程を振り返って～
長谷川 健 (125期・卓球部)
東大教養学部統合自然科学科
物質基礎科学コース3年



<2017.6.16 新人歓迎会で>

東京大学では入学してからの二年間、前期教養課程で分野を問わず自由に学習した上で、自身の希望と成績を踏まえた進学選択制度により、三年次以降の専門を決定する。私が東京大学を志望した理由もこの制度が大きかった。高校時代から理系を選択しながら、歴史や古典といった文系科目に興味を持ち、大学受験で将来の道を決められる決断力のなかった私には、非常に魅力的なシステムであると感じ、受験を決めた。

幸運にも現役合格を果たしたが、実際の大学生生活は、それまでに思い描いていたものと異なっていた。語学や数学などの必修科目に追われ、周囲の学生の能力に圧倒され、自分の興味を追求ことはままならぬばかりか、必修の単位が足りず、他の人よりも一年多くの歳月を前期課程に費やすこととなってしまった。

そこで一年間立ち止まるのではなく、何とかこの先に活かそうと考え、北欧史、中国古典、憲法、経済地理学、アラビア語、宇宙物理学など幅広い科目を履修してみることにした。すると、徐々に過去に学んでいたことが繋がるように感じ、楽しいと感じることが多くなった。一見すると全く関係ない知識の間から新たなブレイクスルーが生まれる。これを実感できたことが、前期教養課程における最大の意義であり、高校時代の選択が間違いでなかったと今は確信している。

入学してから三年間で、一般的な大学生が専門知識を蓄え、就職活動を本格化させているのに対して、この三年で私が学び得たものは各分野のほんの入り口に過ぎず、一つとして専門と呼べるような分野もない。しかし、目まぐるしく変化する社会において、深くなくとも広い視座を持ち、柔軟に思

考を展開できることがむしろ強みになると考えられる。これからは化学を中心として学び、研究を進めたいと考えているが、他の分野からも知識や思考を貪欲に取り入れ、それらを結びつけることによって、自分だけの新たな知の体系を創ることを目指していきたい。

「外交官になるにあたり」
金子智奈美 (124期)
慶応大学法学部政治学科4年

人生は後から考えると、やはり結ばれる一つの線だったと感じることが多い。日常は、無意識的な行動や無為に過ごした時間の積み重ねである。けれども、自分の直感や信念に導かれて選んだ点としての行動が、ゆるく結びついて長い線になっている。

私は、新潟高校にいた16歳の時、ベルギーのフランス語圏一年間留学をした。なぜフランス語圏でもベルギーなのかと問われれば、ベルギーに公用語が三つある、とか、首都ブリュッセルに様々な国際機関があり興味深い、と説明していたのを覚えている(当時は国際機関で働きたいと考えていた)。けれど思い返せば、誰かが、「知り合いのお嬢さんが留学をしていたベルギーはとてもいい国らしい」と言っていたのを聞いたのが、そもそものきっかけだったように思う。一年間現地校へ留学をして(しかし当然高校なので勉強内容は教養科目中心ながら)、フランス語を学びの場で用いること、今でもやり取りをしている友人やホストファミリー等、得たものはかけがえがない。しかし、その「知り合いのお嬢さんが留学」していた話を後日詳しく聞いてみると、「ベルギーではなくデンマークの間違ひだった!」

人生の偶然ということに思いを馳せると、本当に運命しか言いようのないものばかりである。人の選択の本質は、案外このような勘違いや、思い込みによるところも多いのかもしれない。

私は、五年間抱き続けてきた、外交官になりたいという夢を叶えることができた。これもまた、偶然に助けられたことが大きいものかもしれない。政治学という専門を選択したこと、フランス語とラテン語を学ぼうと思ったこと、西洋外交史をゼミで入ろうと思ったこと...これらはもちろん意識した行動である。しかし、その人の人生は「なんとなく入ろう」と思ったサークル活動や、「何かはわからないけれども惹かれる」友人、「時間が空いて聞きに行った講義」等に意外と左右されているのかもしれない。

根本的なことを思い出そうとすれば、小学生の頃、実家のヨーロッパのアンティーク家具店だったリビングのテーブルで、おやつを食べるとき、グレゴリオ聖歌やバッハが流れていた。私の幼少期の原風景は、「どこかヨーロッパにつながっている」という不思議な感覚である。案外このようなものが、私が大学で西洋外交史を専攻した潜在的な理由かもしれない。

四月から、憧れだった場所がいよいよ働くことになる。自分がそれに見合うほどの大局観を持っているのかと言われると...正直不安なことも多い。しかし、それでも自分が選び取ったこと、振りまかれた不思議な偶然によって選び取っていたものに思いを致し、周りの人に与えられた幸運に感謝をし、立派な行政官になる努力を続けたい。

<新潟高校・押木和子先生から; 2019.8.17>

夏休み卒業生が学校にきています。慶応大四年の金子さんが外務省総合職に内定と。後輩達にも情報を伝えたいとのこと。どうか東京青山同窓会でもよろしく願います。放送部に所属したり、ベルギー留学もして、大変有能な生徒でした。



“2019年～報道等に見る「青山ゆかりの方の記事」から” 編集;工藤義夫(事務局)

野崎 欽 氏 東京大学 最終講義 『ネルヴァルと夢の書物』 レポート ～ 第1～第3回 ～

3月10日、東京・文京区本郷の東京大学本郷キャンパスで、塩川徹也氏文化功労者顕彰記念講演会が開かれた。演題は「仏文でパスカルをく勉強すること」。高校時代にパスカルの『パンセ』に出会った時のことから、フランス留学時代を経て現在まで、いかにパスカルと対峙してきたかについて語った。この模様を載録させてもらった。また、同日行われた野崎欽氏最終講義「ネルヴァルと夢の書物」をレポートする

読書人紙面掲載;2019.4.5 (第3284号) <目次>

- 第1回 フィユトニストとして 2019年4月6日
- 第2回 究極的な文学のあり方 2019年4月7日
- 第3回 読むことと夢を見ること 2019年4月8日

野崎 欽 (のざき かん) 氏

東京大学教授、フランス文学。著書に「ジャン・ルノワール越境する映画」「赤ちゃん教育」「異邦の香り ネルヴァル『東方紀行』論」「夢の共有 文学と翻訳と映画のはざままで」など。1959年生。現在放送大学教授。青山85回卒



第1回 フィユトニストとして 野崎 欽氏

本郷キャンパスの大教室で行われた野崎欽氏の最終講義は、教室に入りきれない聴講者のために、急遽別の教室が開放され、映像で同時中継された。演題は、専門としてきたジュール・ド・ネルヴァル。野崎氏自身、文芸誌『群像』でネルヴァル論を長期連載し、それを一冊にまとめた『異邦の香り』(二〇一〇年刊)によって、翌年第六二回読売文学賞を受賞した。

講義の冒頭は、ネルヴァルの作品に初めて触れた時の話からはじまった。大学一年の頃、友人の佐藤淳二氏(現・京都大学教授)から借りた『世界の文学 新集08』(中央公論社、一九七〇年刊)に収録された『火の娘』が『オーレリア』だった。当時シュルレアリスムに傾倒していた野崎氏は、アンドレ・ブルトンの「シュルレアリスム宣言」の中で、ネルヴァルの名前を知り、興味を抱くことになる。

「ネルヴァルの人柄や生涯についての文章を読んでいくと、ある時パレロワイヤルで、オマール海老に青いリボンをつけて散歩させたという逸話があり、いたく気に入りました。ネルヴァルは友人たちがおかしな顔のに対して、「僕はオマール海老が好きなんだ。おとなしくて真面目で、海の秘密に通じているし、吠えたりしないから」と答えた。その答え自身が、僕にとっては素晴らしい詩のように感じられました。『世界の文学』に収録された作品は、正直言ってよくわからなかったんですが、底知れない手応えと広がりを感じ、ネルヴァルの謎に少しでも分け入りたいという気持ちで、卒業論文のテーマに選びました。以後、横道にそれながらも、今日に至っています。」

一九世紀初頭に生まれたネルヴァルは「フランス・ロマン主義第二世代にあたり、ヴィクトール・ユゴーの名前に代表される第一世代の栄光に強く憧れて、早くから文学を志した」という。最初の大きな仕事は、ゲーテ『ファウスト』第一部の翻訳だった。若干一九歳の時のことである。その後パリ大学医学部に登録するも、医者への道は早々に諦め、「フランスで勃興期を迎えていた活字ジャーナリズムの世界に身を投じる」とこととなる。新聞の文芸欄(フィユトン)に記事を執筆する、

職業的ジャーナリストに対して「フィユトニスト」という呼称が生まれた時期でもあった。ネルヴァルは、その仕事を生活の糧とした。記事の内容は、主に劇評と旅行記事であり、「記事には文学的な興味も盛り込まれ、フィユトニスト自身の個性も発揮されるようになっていた」。野崎氏は、メディア拡張期における、そうしたネルヴァルの「物書きとしてのポジションに興味を引かれた」という。

「そこには、そのまま現代に通じる職業的文筆家の最初の姿があります。ヴィクトール・ユゴー的な崇めるべき詩人像に比べれば、ごく慎ましく、しがない売文業者としてのありように過ぎません。しかしフィユトニストは、読者との新たな関係に基づく、生き生きとした文章が紡ぎ出される場所でもあったのではないかと。とりわけネルヴァルの場合、まさにメディア的な、あいだに立つものとしての作家像が、ここで確立されたように思います。まず彼は翻訳家であり、異国の言語で書かれたテキストを、フランス語読者のために訳す媒介者でした。同時に、毎晩のように演劇を見て、その内容を伝える、劇場と読者のあいだに位置するものでもありました。もし現代に生きていたら、彼は必ずや映画評論家になっていただろうと思っています。それに加えて、旅行記作者の仕事があります。〈ツアーリズム〉という言葉が英語経由でフランス語に到着したのは一八四〇年代初めですが、観光旅行の時代における新たな旅行記のあり方を、彼は模索しました。それはエキゾチックな異国の情景をフランスの読者に伝える媒介者としての仕事であり、旅の印象を文章に翻訳する作業でもありました。

このように様々な領域のあいだに立ち、媒介者としての言葉を紡いでいった。その意味で翻訳・劇評・旅行記は、ネルヴァルにおいて一貫した文章の営みをなしていたように思います。そこから、媒介者自身の内的な体験をも表出する可能性が生じていきます。たとえば、一見劇評かと思わせて、実は自分が夢に見た架空の劇だったというような記事を書いています。そうしたジャーナリズムの仕事に、ネルヴァルの後年の文学の萌芽がある。これが、僕が最初に書いた論文で主張したひとつの事柄でした。」

第2回 究極的な文学のあり方

『異邦の香り』は、サブタイトルに「ネルヴァル『東方紀行』論」とあるように、主に『東方旅行記』を扱った研究論文であった。野崎氏がこれまで活字にしてきた論文の多くも、「ネルヴァルにとって、フィユトニストとしての活動が持った意義や、旅行記事の独自性の分析からはじまり、夢がネルヴァルのテキストをひたしている有様を明らかにしようという試みだった」。大学一年の時に初めて出会った、ネルヴァルの代表作『火の娘たち』に関しては、自身の手によって翻訳作業が進行中である。同じく代表作であり遺作となった『オーレリア』が、本最終講義のメインテーマとなる。「〈夢と人生〉という副題が示すとおり、『オーレリア』こそは、〈あいだ〉に位置する人としてのネルヴァルの本領を最も端的に示すとともに、ひとつの究極的な文学のあり方をうかがわせる作品だと思われるから」と野崎氏。

講義は、作品の断片を引用しつつ進められた。 たとえば冒頭の次のくだりに注目する。

「夢」は第二の人生である。我々を目に見えない世界から隔てている象牙、あるいは角の門を、私は身ぶるいせずには通り抜けることができなかった。眠りの最初の瞬間は死の似姿である。思考はどんよりと麻痺したようになり、〈自我〉がいったいどの時点から、別のかたちで存在の営みを続けるのか、はっきりということとはできない。猿とした地下世界が徐々に照らし出され、夜闇のただ

中から、重々しくじっと動かない蒼白の姿が浮かび上がってくる。それらは冥府に住まう者たちの姿情景が明らかになり、新たな光がそれらの奇妙な幻を照らし、動き出させる。――「霊」の世界がわれわれの前に開けるのだ(『オーレリア』第一部第一章、野崎訳)。

野崎氏は、次のように読み解く。

「ネルヴァルの文章として、これ以上重々しい文体はないというほど、荘重なスタイルで書かれています。大文字で書き出される「夢」の世界を描くにあたって、並々ならぬ気迫が感じられます。同時に夢の一部で指し示される経験が、一般に考えられる夢とはかなり異なるものであることも早々に感じられます。ただしその文章で、ネルヴァルは夢が第二の人生だと、すなわちもうひとつの新たな人生として大きな意義を持つのだと宣言しています。象牙あるいは角の門というのは、ホメロスの『オデュッセイア』やウェルギリウスの『アエネイス』に遡る表現のようです。ウェルギリウスによると、角の門からは真実の霊がメッセージを我々に送ってくる。この門は冥府にあるんですが、それに対して象牙の門は一見美しいが、そこから霊が偽りの夢を地上に送ってくる。そういう表現が、ルネサンスを経由してきてロマン派にまで伝わってきていたわけです。

注目したいのは、そうした伝承では、夢の方が門を通してやってくるのに対して、ここでネルヴァルが描いているのは、自ら懐きつつ門をくぐる、いわば冒険者としての夢見るものの姿だということです。受動的な夢の体験から能動的・積極的な夢の体験へという方向性のシフトが打ち出されています。古代的な夢のめぐる始祖の伝承と共に、非常に神秘的な夢の捉え方、つまり死と深く結びついたものとしての夢という考え方も見て取ることができます。「眠りは死の似姿」というのは、広く知られたラテン語の言い回しから来ているのではないのでしょうか。それは、ただ眠っている人の姿が死者に似ているということだと思いますが、そこから一挙に、夢の世界を死後の世界へと直結させていこうとします。たとえば「蒼白の姿」、これは「死神のように蒼白」といった用法を思い起こさせます。「幻」という単語は「幽霊」の意味をも持ちます。そして夢は「霊」の世界と定義し直されているわけです。」

第3回 読むことと夢を見ること

フィユトニストとして出発した最初から、ネルヴァルは「自分が夢に見た架空の劇」に関する記事を新聞に寄稿していた。夢がこの作家にとってそれほど重要だったのである。野崎氏は講義の後半で、以下のように語った。

「ネルヴァルは、読むことと夢を見ること、そして書くことと生きることのあいだに、極めて独自の、いわば絶対的な連続性を作り上げようとしていた。それこそがネルヴァルの書物を成り立たせている夢あるいは狂気だったと言ってもいいでしょう。ネルヴァルには、他人のテキストや自らの過去のテキストの翻訳や引用を素材として、新たなテキストを紡ぎあげるといったやり方が顕著に見られます。それは単にメタテキスト的な遊戯、あるいは創作力不足、想像力の欠如を補う苦肉の策というわけではありません。

『オーレリア』冒頭の表現になぞらえて言うならば、〈自我〉に別のかたちで存在の営みをさせるための手段、夢の門をくぐり抜けていくための方策だったのではないのでしょうか。」



“2019年～報道等に見る「青山ゆかりの方の記事」から” 編集:工藤義夫(事務局)

先端技術と人類どう共栄
(朝日教育会議)・南場智子さん

朝日新聞 2019年12月17日

◆序言:人工知能(AI)やロボット技術の急速な発達により、社会が新たな段階Society5.0に突入しようとしている。様々な社会課題が解決すると期待される一方、不安も根強い。「Society5.0を生きる」と題した教育会議で未来の可能性を議論。
【千代田区有楽町朝日ホールで11.21開催】

■基調講演 情熱と個性のコラボ、開く新時代
DeNA(ディーエヌエー)

代表取締役会長・南場智子さん

DeNAの創業が1999年で、今年ちょうど20周年を迎えた。この間にインターネットが普及するなどして、多くのポジティブな変化が地球の隅々に行き渡った。そして今、IoT、ビッグデータ、AIに象徴される情報テクノロジーの急速な発達で、ネットの世界だけでなくリアルな世界にも恩恵が滲(にじ)み出てきている。

DeNAもネット上に閉じた事業だけではなく、モビリティサービスやヘルスケアサービスのほか、横浜DeNAベイスターズの運営、街づくりにも挑戦して事業を拡大してきた。

我が社で成果を上げている事業チームをみると、実に多様で個性豊かな人材が集まっている。モチベーションの源泉も強みもバラバラ。このバラバラが強さの秘密だ。多様な個性が異なるものを持ち込むことで世の中に大きな喜びを届ける。一方でショックへの耐性も強くなる。

Society5.0と呼ばれるこれからの時代を切り開くにはどんな人材が求められるのか、私なりに考えてみた。(1)自分なりの個性をチームに持ち込むこと、(2)様子の異なる人とコラボレーションする力を持つこと、そして特にリーダーにも求められるのが(3)様子の異なる人たちを一つにまとめるための「パッション」を表現すること、だ。今の日本の教育でこの三つを強化する方向になっているかどうか、疑問だ。

そこで初等教育が課題になるのだが、前述の三つの強さを育むには、プログラミング教育が一つの有効な方策になると思う。DeNAはCSRとして、佐賀県武雄市や横浜市などで無料アプリでのビジュアルプログラミングを教えている。小学1年生でも、筆箱をパンと鳴らす音を取り込んだホームランのアニメーションや、UFOを撃ち落とすゲームなど、実に個性豊かな作品を作る。小学校中学年ではグループで一つの作品を作ることでお互いに協力するダイナミズムと、もっと面白いものを作りたいというパッションとが生まれている。

新しいものを応援するという点でいうと、DeNAでは「デライト・ベンチャーズ」というファンドを始めた。会社として公式に優秀な人材の背中を押し、独立起業を支援する。リストラの逆で、良い人から順番に起業のチケットを与える。その人たちと緩やかに連携することで、一社でやるよりも大きな喜びが提供できる。会社は出資に対するリターンを得られるだけでなく、大きなデライトの一部になることで、事業機会は格段に拡大すると考える。

これからの企業は、新卒一括採用や終身雇用などは壊すべきだ。企業は個性や情熱に合わせた主体的な職業選びを歓迎すると同時に、社員を困らせないで、その個性や情熱を解放する経営に舵(かじ)を切っていく必要がある。

■パネルディスカッション

南場 日本でもスタートアップ企業は増えているが、人口単位やGDP比で見ると圧倒的に少ない。起業意欲に関する調査結果をみても、日本は先進国の中でずっと最下位。大企業に就職することが一番という価値観があるし、それ以前にみんなと同じように振る舞うことがいいことだと小学校前から教育されている。常識を疑う教育をしないと起業家は生まれない。

・Society5.0に向け私たちが取るべき態度は？

南場 危険が迫ったときロボットは誰から優先的に救っていくべきなのかという議論がある。価値観によって答えがみんな違う。最終的にロボットに意思を込めるのは人間。どのような意思を込めるのかが問われる。私たちはより良い社会のために果敢に挑戦していかなければならない。

■新しい社会を前に、尽きぬ問題 会議を終えて

南場さんは「本当の人間らしさとは何かが問われる時代になる」と言った。やりたくないことは可能な限りロボットやコンピューターにやらせるとなると、じゃあいったい自分は何をやりたいのだとか、幸せって何だろう、といったことが問われるはずだという。

人間がAIに支配されるとかAIの戦争は悲惨な結末を迎えるとかの悲観的な言説もあるが、安宅さんは「AIには意思はないのです。人間には悪いやつがいっぱいいるという議論でしかありません」と、あくまで人間の問題だと話した。

■朝日教育会議

14の大学・法人と朝日新聞社が協力し、様々な社会的課題について考える連続フォーラムです。「教育の力で未来を切りひらく」をテーマに、来場者や読者と課題を共有し、解決策を模索します。特設サイト: (http://manabu.asahi.com/ae/2019/ 共催大学・法人: 神田外語大学、京都女子大学、共立女子大学、慶応義塾大学、公立大学法人大阪、成蹊大学、拓殖大学、千葉工業大学、東京工芸大学、東北医科薬科大学、東洋英和女学院大学、法政大学、明治大学、早稲田大学(50音順)

* ◆なんば・ともこ 1962年生まれ。86年、マッキンゼー・アンド・カンパニーに入社。ハーバード大学にてMBAを取得後、マッキンゼーでパートナー(役員)に就任。99年にディー・エヌ・エーを設立。2017年から現職。◆



南場智子さん・青山89期卒

南場智子;DeNAはマッキンゼーを超えた
100億円ベンチャーファンド創設の訳
～田原総一郎が迫った～(抜粋)

2019.11.8 プレジデントオンライン

◆DeNAの時価総額は約3000億円。創業者の南場智子氏は、世界でもっとも成功した女性起業家の1人だ。ただ、ここまでの道のりは苦難の連続。それでも挑戦はやめない。2019年7月に100億円規模の起業家支援ファンド「デライト・ベンチャーズ」を立ち上げた。はたして、日本からGAFAG級のベンチャーは生まれるか。田原総一郎が迫った!

◆ここ20年で日本からはGAFAGが生まれなかった

【田原】海外展開はどうですか?
【南場】人気のゲームタイトルは、世界で何億人もユーザーがいます。ただ、1度海外進出で失敗しているんです。米国企業を買収して大展開しようとしたがうまくいかなかった。いま大きな支社は上海だけです。

【田原】どうして失敗したの?
【南場】これも買収後のマネジメントが原因ですね。買収先の経営陣と本当にワンチームになれるかというところが難しく。逆に上海の支社がうまくいっているのは、日本と中国をよく理解した人材がトップにいて、いい体制を築けたからです。

【田原】トランプは、下手に中国に行くとか知的財産をぜんぶ盗まれると言っていますね。そのへんはどうですか?

【南場】私たちのやっているゲームも違法コピーされているし、中国は人材の流動性が高く、わが社の社員が退職後にわが社の手法で事業をやるケースもあります。でも、目くらまえてもしょうがない。そもそも私たちの強さの源泉は、どんどん進化していく力。だからいまあるものを盗まれても怖くないですね。

【田原】19年夏、南場さんは100億円規模のファンド「デライト・ベンチャーズ」を立ち上げました。なんでもい始められたんですか?

【南場】創業して20年が経ちます。その間米国のGAFAGは急拡大しましたが、日本からはその規模の会社が出てこなかった。そんな会社を支援したいと思っています。DeNAはこれまで数多くの新規事業をスピンアウトさせてきました。その取り組みを加速させて、社内外で起業家を輩出する枠組みとしてファンドをつくりました。

【田原】そういえば、この連載でもDeNA出身の起業家に何人か会いました。優秀な人材が外に出ていくのはマイナスじゃないんですか?

【南場】全然マイナスじゃないです。流動的な社会が私の理想。自分たちだけでやる時代はもう終わり、次はもっと内外で緩やかにつながり合って、世の中に届けるデライトの総和を最大化していく時代になると思います。出ていった人とも緩やかにつながりて応援し合っているうちに、DeNAの表面積も拡大していく。むしろメリットが大きいです。

【田原】なるほど。DeNAはマッキンゼーに似てるね。マッキンゼーで働いたことはキャリアになるけど、DeNAもそう。日本のマッキンゼーだ。

【南場】DeNA出身者といったら、もう入れ食い。アドバイスをするのと自分でやる人は違うので、マッキンゼーは超えていると言いたいですね(笑)。



“2019年～報道等に見る「青山ゆかりの方の記事」から” 編集:工藤義夫(事務局)

竹本 恵 (たけもと めぐみ)

◆人生の不確実性の低下に耐えられない私が留学を決めた日◆～転職を考えMBA留学するなら、少しでも早いほうがいい～

#2/全5回 2019.04.09 日経DOORS

新潟高校には3年から編入。青山107回卒。東大野球部。東京六大学野球に投手で出場。教育学部を卒業後、3年間、二輪で世界巡回。東京大学公共政策大学院。日経記者。結婚。出産(2子)。離婚後、子連れでスペインバルセロナにMBA留学中。(千葉県出身、県立宮城一女から)

◆ESADEの生活1年半全部で2000万円◆

前回記事・東大で野球三昧、バイクで3年海外放浪 元記者では、自己紹介を兼ねて仕事を辞めるまでのお話をしました。今回はMBAに絞って、お話ししたいと思います。

「MBA」は、経営学修士の学位で、世界中の数多くのビジネススクールがプログラムを提供しています。一般的には米国では2年、欧州では1年の課程の学校が多いと言います。基本的には数年の実務経験がある社会人を対象にしており、より待遇のいい会社、やりがいのある仕事へキャリアアップの一つのきっかけとして参加している学生が多いと思います。日本人は勤務先から派遣されて社費で留学する人が一定数いますが、海外の人は退職して私費で行く人が大多数だと思います。ちなみに学費は数百万～1000万円以上と驚くほど高いです。私が通うESADE(エサーデ)の場合は期間が12、15、18カ月から選べ、学費は期間にかかわらず900万円です。私は18カ月の予定で、生活費を含めると必要経費は合計で2000万円程度と見込んでいます。

ESADEの構内。日本のいわゆる総合大学に比べると、このキャンパスは決して広くはありません。学部生、大学院生、MBA生向けの施設他、ベンチャー企業が多く入居している建物があります。また、起業家を支援する施設がたくさんあるのも特徴の一つです。

私の場合、必要資金は基本的に貯金で賄っています。物欲がさほどないと、忙しくて使う暇がなかったのが幸いでした。また学費のうちの130万円についてはフォルテファンデーションという女性支援団体から奨学金をもらっています。たいいてのビジネススクールは自前で奨学金を用意しており、ESADEも最大学費の半額を補助する制度があります。私は出願時期が遅過ぎて申し込めませんでした。

日本でMBAに対する評価が低い、そのワケは？ MBAにはいろいろな側面がありますが、共通しているのは次世代のビジネスリーダーを育てるということです。その一つの形が、例えば転職支援であり、別の形が起業家支援になります。学校によってもさまざまな特徴があるので一概には言えませんが、私が所属しているESADEは起業家支援という点で高く評価されている学校です。スペインにある学校ですが授業は英語で行われます。ビジネスの共通言語と言えばやはり英語ということになるでしょう。

ESADEのMBAは一学年180人ほどの学生がいて、A、B、Cの3つのセクション(クラス)に分けられています。なかなか集合写真を撮る機会はないのですが、この写真はその数少ない写真の一つです。1学期のテストがすべて終わった時に、クリスマスのイベントをした時のものです。実際に留学してみようと思うのですが、MBAに対する考え方は日本と海外で大きく異なります。日本ではMBAに対する評価が低く、その背景にはやはり、新卒一括採用や終身雇用といった日本独特の雇用制度があると言えます。以前と比べ状況は変わりつつあるものの、日本企業ではまだまだ新卒一括採用が一般的で、採用後に人材を育て退職するまで面倒を見る、というのが典型的な形態です。実際に留学してみようと思うのですが、MBAに対する考え方は日本と海外で大きく異なります。日本では



MBAに対する評価が低く、その背景にはやはり、新卒一括採用や終身雇用といった日本独特の雇用制度があると言えます。以前と比べ状況は変わりつつあるものの、日本企業ではまだまだ新卒一括採用が一般的で、採用後に人材を育て退職するまで面倒を見る、というのが典型的な形態です。

一方、海外企業は役職に空きができたときに適切な人材を補給する、という採用形態が一般的といわれています。同期の学生を見回してみても、既に数回、転職を経験し、次のキャリアアップに向けた比較的、確実な手段としてMBAを活用している例が多く見られます。一つの企業でのみ働いてきた人はむしろ少数派でしょう。

このような違いをともに、MBAそのものがあまり日本の企業文化になじみにくい性質を持っていると私は考えています。それが結果として、例えば日本人学生の年齢にも表れていると思います。日本人学生の平均年齢は全体の平均年齢より高い傾向があります。社費派遣では、入社数年でMBA留学させてくれる会社はあまり多くないでしょう。また、私費では卒業後の進路にリスクを負うため、一歩を踏み出しづらい上、留学資金を確保するまでに時間がかかります。でも、もし他の条件が同じであれば日本でもあれ海外でもあれ、年齢が若い人を探用するでしょう。もし転職を考えてビジネススクールに行くのであれば、早いほうがいいと言えそうです。さて、ここで私がなぜビジネススクールに行くかと思ったかについてお話しします。

◆人生の不確実性下がり過ぎることに耐えられない◆

前回お話しした通り、好きで入った会社を辞めるというのは非常に大きな決断で、退職するまでにはいろいろな葛藤がありました。でも結局、やりたことをやりたようにやりたという気持ちには勝てません。こう言う私は非常にリスク選好が高い人間なのかと思われるかもしれませんが、確かに、人生の先が見えてしまうことが非常に嫌いです。例えば若い頃にがむしゃらに働いているうちはいいのですが、「ああこのまま新聞記者を続けて、何年後にキャップになって何年後にデスクになって、60歳か65歳で定年か……」と自分の人生が見えてしまうと途端に耐え難い気持ちになります。人生における不確実性が一定程度以下に下がると耐えられないのだと思っています。でもその中でも極力、予測できないリスクは抑えるようにしています。

決して後先考えずに会社を飛び出しているわけではなく、最悪これで何と生きていけるだろう、という算段を立てて保守的に決断しているつもりです。自分のやりたいことを実現するためのさまざまな選択肢を洗い出し、現状で考えられるさまざまな可能性を考慮して、それぞれにさまざまなパターンを想定し、これならいけるという結論に至ったのがMBAでした。

これまで経済紙で企業取材を経験してきたこと、さらに第一子の育児休業中に勉強して中小企業診断士の資格を取ったことが生かせる、もしくはマイナスにならず、かつ、海外で生活したい、留学したい、起業したい、というやりたいことを実現させられる、ベストな選択肢でした。

その決断を後押しするために、また自分に覚悟を迫るために、ビジネススクールへ出願する前に会社を辞めることにしました。「背水の陣」が私には効果的なのです。2018年3月退職、半年ほど集中して勉強して秋から冬に出願し、2019年の9月に入学という計画を立てました。その間は中小企業診断士を開業して、もし合格できなかつたら当面、診断士で頑張っていこうと思っていました。

◆ESADEの魅力は「起業家支援」◆

ただ、実際に受験準備を始めたのはもう少し時間を遊ります。2017年秋から英語の勉強を始め、冬にGMATという、センター試験のMBA版のようなテストを受けました。ただ結果が全く芳しくなかったのあと半年は集中して勉強する時間が必要だと思った次第でした。志望校についてはESADE一択、というよりはバルセロナ一択でした。ビジネススクールを探してインターネットを見ていた

ある日、バルセロナにいい学校があることに気が付き、その瞬間にバルセロナと恋に落ちました。学校はもちろん大事なのですが、それ以上に自分が住みたい場所、子どもを育てたい場所というのが何よりも重要な要素でした。調べてみると、MBAトップスクールと言える中で、バルセロナにはIESE(アイエセ)とESADEの2校があり、多様性、カリキュラムのバランスのよさ、そして何より起業家支援に力を入れているというところでESADEが第一志望になりました。

とても和やかな授業風景です。座席は学期ごとに変わりますが、各学期で自分の席は固定されています。私の場合、1学期は一番後ろの席で、2学期は一番前になりました。どちらも善しあしがありますが、一番前のほうが黒板が見やすくも聴きやすいので思ったより気に入っています。

バルセロナは大学卒業後の旅行中に通り掛かっただけなのでよく知りませんでした。ただ、前回もお話ししましたが、私のイメージは間違いないくバルセロナの太陽と真っ青な空の下でビールを飲んだら、たいいてのことはどうでもよくなるって!」です。もうバルセロナ以外は考えられませんでした。

さて、そういうわけで退職を目前にしていた2018年3月下旬のことでした。ESADEの入事務務局でアジア大洋州担当のメリーと連絡を取っているうちに、2018年9月入学に出願してみただけでみようかということになりました。現状の英語試験の点数、GMATの点数が足切り以下ではない点、たとえ不合格で翌年に出願したとしても今年の不合格の事実がマイナスにはならない点などで、とにかくやるだけやってみることにしました。

◆英語での2時間の面接を経て合格!◆

いろいろな可能性を想定する中で、上司からの推薦状は既にお願ひしてあったので、あとはなんとか数日がかりでエッセーを書き上げるだけで。決して「だけ」と言えるものではないかもしれませんが、期限が決まっているものはその時が来たら必ず終わるので、結果的にはかなり効率的に仕上げることができました。という方向に解釈しています。

4月中旬に都内のホテルでメリーと2時間の面接に臨みました。私は決して英語が得意ではないので、いきなり英語で面接、しかも2時間近くかかったの、その直後の疲労は絶大でした。その後、5月に入った頃に合格の知らせをもらいました。スペインはビザ申請の手続きに時間がかかるので、7月下旬に渡西するまではかなり慌ただしい生活でした。

ここでMBAの出願プロセスについて少し説明したいと思います。欧米の学校は9月入学が多く、学校によりですがおおむね、前年の秋から複数回、出願の締め切りを設けています。大まかには秋、冬、春というイメージです。出願に必要なものは、(1)願書、(2)大学の成績・卒業証明書、(3)英語の能力証明書(非英語圏出身者のみ)、(4)GMAT、(5)エッセー、(6)上司からの推薦状、(7)履歴書といったところになります。

(1)の願書は自分の基本情報を書くもの、(2)大学の証明書は取り寄せるだけなので、さほど難しいものではないと思います。一方、英語が母国語ではない多くの日本人にとって時間がかるのは、(3)の英語と(4)のGMATかもしれません。英語については、例えばTOEFLであれば100点以上といった出願のための最低点、もしくは目安を設けているところが多いです。また、ESADEはMBAで学ぶための基礎的な言語、数学、分析能力を、英語で測る試験です。800点満点で、トップスクールでは700点以上などが目安になるのではないかと思います。一年間の受験回数が5回までという制限があることも、この試験を難しくしている要素になります。加えて(5)のエッセーも一筋縄にはいきません。学校によって質問や形式、分量はさまざまですが、なぜこの学校で学びたいのか、という志望動機から派生した質問が多いような気がします。もう少しかみ砕くと、将来的にどういう目標を踏まえて、これまででどういうことをやっていた、それらを踏まえて今という点が足りなくて、何を待たなくてビジネススクールに来るのか、といったところでしょう。また、忘れてはいけないのが、学校にどのような貢献ができるのか、という視点になると思います。これらに論理的に答えるには、英語の問題ももちろんありますが、それ以前にまず、自分のことをしっかり見つめ直す必要があると思います。また(6)の推薦状ですが、特に私費の人ほどのタイミングで誰にお願ひするのが悩むところになるで



“2019年～報道等に見る「青山ゆかりの方の記事」から” 編集;工藤義夫(事務局)

MBA in バルセロナ・続

本当にやりたい事は一步一步でも進めてゆく

さて、以上の書類を用意するのにどれくらい時間がかかるか、以上と、一般的には1~2年とわけていっている。ただ、実際に書類の取得にかかる時間ではない、例えばGMATであれば受けた直後に結果は分かります、英語も試験にすぎず1~2週間程度で結果が出ます。とは、通常通り仕事をしながら準備を進め、すべてを目標以上の水準まで持っていくには、相当な時間がかかると言えるでしょう。

「時間がない」というのはたさんの人に共通することだと思います。そんなときは「優先順位が低い」と言い換えることにしています。「時間がない」からできないのではなく、「優先順位が低い」からやらない、もしくは後回しにする。こう言い換えて違和感がなければそれでいいです！「そんなことはない！」と思うのであれば時間をつくるまでです。仕事に忙殺されているとあつという間に時間が過ぎていきますので、本当にやりたいことは一步一步でも、進めていけるかと思えます。

ここまでMBAについていろいろ話してきましたが、大切なことは「MBAは手段ではない」ということだと考えています。これは人生におけるさまざまなものにも当てはまることだと思います。MBAは、人生を変える可能性を十分に秘めた、素晴らしい経験だと思えます。入学前にあつてもなかつたような機会に接して、進路が180度変わることも珍しくないと思えます。しかし、費用もとても高いです。また、MBAを取ればすべてがなんとかなる、というものでありません。あくまで、自分の目標を達成するための一つの手段として、有効に活用できたら素晴らしいのではないかと思います。



<<あとがき>>

今回は、日本人の同級生をご紹介します。五月まゆみさん(28歳、写真左・前の頁)は外資系製薬会社で5年半、営業や「ビジネスアナリティクス」という市場戦略の策定を支援する部門を経験した後ESADEに入学しました。

彼女はもともと、とても国際志向の強い人です。高校生の時に両親に「こんな学校があるよ」と教えてもらったことをきっかけに2年間、単身で英国に留学し、国際バカロレアの認定資格を取りました。「なんとなくこういふルートが正解」という雰囲気にもモヤモヤしたものを感じ、もつといろいろな角度から、何が自分にとって正しいと思える道なのかを確かめたかったのだと当時を振り返ってくれました。この2年間は80カ国以上から集まった学生と寮生活を共にする、とても充実した期間だったそうです。学費は奨学金で賄ったため、追加の経費は渡航費程度だったとのこと。彼女の話を聞いて私も、いつか自分の子どもにこういう学校を勧められたらとほそかに思いました。

シカゴ大学で化学を専攻時、研究のための大学院には進学しないこと、その代わりに「ビジネス」の話をするにはその言葉で勉強する必要がある」として既に、将来的にMBAを取得することを考えていました。

ビジネススクールを選ぶ際、五月さんは、より挑戦的な環境を求めて、慣れ親しんだ英語圏ではなくあえてスペイン語圏を選びました。これまでにスペイン語を勉強したことはなかったそうです。五月さんはたMBAだけではありません。大変な環境のほうで、他人に頼り、また他人に頼られる経験を通して、より成長できると「思った」と言います。でもESADEには比較的にのんびりした人が多いから「課題の締め切りが近くも焦らない」「なんとかなるさ」の精神にカルチャーショックを受けた」と笑って話してくれました。文化が違うので当たり前ですが、海外経験の長い彼女でもカルチャーショックを受けたという話は新鮮です。ビジネスの勉強をしに来たというだけあって、一番役に立った授業はファイナンスや会計だそうです。ちなみに私は起業家志望なのでアントレプレナーシップです。

五月さんは卒業後については、製薬会社だけでなく全く違う業界も候補に転職を考えています。会社を決める時に最も大事にしているのは「その会社が好きかどうか」。人に話を聞いたインターンで働いてみたり、その会社の文化、自分に合うかどうかなどを入念に確かめるそうです。数年後にまた転職する可能性などもあるものの、例えば製薬会社であれば国や地域を管轄するような立場になるのが目標です。さらにその先を聞いてみたところ「一生働きたい」とのことでした。

最後に投げかけた「五月さんにとっての仕事って何?」という問いに、彼女は心に響く言葉で返してくれました。「仕事は社会貢献。こうなっていきたいと思う社会を実現するためのツールです」

文・写真/竹本 恵

斎藤美奈子~森達也;web掲示板談話<#97> 斎藤美奈子から森達也へ 2019.12.02 ◆ 件名:「桜を見る会」をめぐる ◆

「『新聞記者ドキュメント』大変な評判ですね。森達也ですっかり時の人という感じ。11月の特筆話題はやはり「桜を見る会」でしょう。共産党の田村智子議員が参院予算委員会をこれに問題にしたのが11月8日。それから11月末までのあいだに、出るわ出るわ、首相が関与したとおぼしき「政治の私物化」を示す数々の証拠。当初は参加者人数が多すぎる、前夜祭の会費が安すぎる、といった「数」の問題だったのが、やがてジャパンプライムの会長だの、「反社会」の勢力の各様だの、参加者の「質」の問題に波及し、一方では名簿データの廃棄という、官僚の不正疑惑まで明るみに出てしまった。公職選挙法違反と政治資金規正法違反は、もはや疑惑の増幅を通り越している。「安倍政権は詰んだ」さすがにもうアウトだ」と誰だつて思っている。

共同通信社が11月23日、24日に行った全国電話世論調査でも、公費による首相主催の「桜を見る会」に関する安倍晋三首相の発言を「信頼できるとする」の回答は69%、「信頼できない」は21%だった(信頼できるとする人が20%もいることの方が驚きだ)。また、これを伝える記事でも「安倍内閣の支持率は48%で、十月の前回調査から5ポイント減った。不支持率は38%」だから、それでもまだ支持が不支持を上回っている。「支持率が50%を下回ったのは七月調査以来、四月ぶり。不支持の理由として「首相が信頼できない」と答えた人は36%で、前回調査から8ポイント増えた」とか言っているけど、総理の発言は信用できないが政権は支持するというのが20%くらいのことだよな。不思議な話。

なぜ、こんなのか。考えてみれば「安倍政権は詰んだ」さすがにもうアウトだ」といわれたことは、モリカケ問題をほめて過去にも何回もあつたわけで、それでも政権は延命し、とうとう憲政史上最長という記録まで更新した。長期政権の「驕り」か「緩み」かといわれないけれど、それだけが理由ではもちろんない。答へのひとつは、貴君のインタビュー記事の中にもある。「やるべきことの最優先は、やっぱり権力監視です。それはジャーナリズムの一番重要な使命のほうなのに、最近ではそれが殆ど果たされていないんじゃないかな。何か疑惑なり不祥事があったとき、首相のふらふらがり取材や記者会見で、なぜもう一歩突っ込んだ質問ができないのかと、もどかし感を感じるかと思えばしばしば。その通り!同意度100%。

◆インタビュー記事の続き◆
「あれだけ『桜を見る会』の問題が取り沙汰されたのに、沢尻エリカ逮捕でもその話題一色に。理由は視聴率が稼げるから。視聴率の主体はテレビではなく社会です。常々と思うが、メディアは社会の合わせ鏡で、つまり僕らはその程度のレベルだということなんです。まあ、原則としてはその通りですよ。同意度80%。20%引きなのは、「僕らはその程度のレベル」と断言しているのだから、一抹の疑問があるからです。じつさい、メディアは沢尻エリカに一時は大きく傾いたけど、桜疑惑にがんする報道はその後を継いでいるし、新しいスクープも出てきた。モリカケよりもずとうわりやすいし、桜疑惑は視聴率が稼げる事業になりつつあるんじゃないかな。

◆ついでに貴君のツイートから◆
「こうした事実が広げられない。あるいは広げても怒らない。メディアの中にも歯ざりしている人はたくさんいる。でも国民が関心を示さないのなら仕方ない。この民度だからこそこの政治家たち。まさしく身の内と実態する」。乱暴に要約すれば「国民がバカだから、報道も政治もこの程度」です(ちがちなちがちなゴメン)。気持ちわかるが、これは同意度50%だ。「国民が関心を示さないのなら仕方ない」という発想は、「読者がバカだから悪い本が売れない」という編集者のボヤキと同じで、クリエイターには危険な発想だよ。それをいっちょあおしあおしのよ。それでも視聴者や読者をふりむかせると、メディアの仕事なんだから。

◆もうひとつ貴君のツイート◆
「僕はネガティブ思考だ。すべてを悪い方向に考える(だってそのほうが失望はないし好転したときの喜びも大きい)。だからこの追及もそろそろ緩んでと考えている。数日でこの国の人々はこの話に飽きるならばメディアも大義を失う。そうしたり顔で考える自分を、お願いだから打ち砕いてほしい。最後に「打ち砕いてほしい」という一文が入っているもの、このうしろもいっしょにぶつやぶつを、社会的に影響力のあるあなたには、してほしくない。読んだ人はガクッと背からさ。終わらせたいためにどうするかを考えてくれよ、みんなが当事者なんだから。同意度10%(「お願いだから」以下がなかったら0%)。あと、以下は貴君がツイートした保坂展人さんのツイート。「どうせ国民は忘れ。年末年始をはさんで、正月を迎えるのを不思議なもので、今は騒がれている「桜を見る会」も、過去のことになる。国会をこれ以上延長すべではない。とにかく、批判に耐えてじっとしていれば潮が引くよという問題は消える……以前から永田町の「経験則」として語り継がれているんだよこれは。保坂さんしらない。永田町の「経験則」をただ伝えただけとしても、読んだ人は誤解しただじか」と考える。何の足しにもならない予言をするから予言通りになるんだよ。同意度0%。安倍長期政権の弊害、主権者側「どうせまたダメ」という敗北主義を植え付けたことだと思ふ。野党支持者側から、選挙では負ける、特定秘密保護法から安保法制、共謀罪(テロ等準備罪)にいたるまで、数々の法案をめぐる攻防戦でも負ける。森友・加計問題、南スーダン日報問題の不正も、政権退陣までは追及しきれず。最後はうやむや。こんなことばかり繰り返してきたおかげで「負け癖」がつき、「ネガティブ思考」が上から下まですっかり身についた。でもさ「桜を見る会」は、今までとは間の深さも広がりも比較にならない。野党はよく戦っているし、ジャーナリズムも健闘していると思わない? 結果は予測できなくても、この調子で行くまへーと思う人は多いはずだ。なので悲観するヒマがあるならば、応援したほうがいいのか。野党がよければ、マスコミ負ける。君には世論がついてるぞ。アウトなはずの政権を本当にアウトにするには、前向きに行かないと。そうしたら、ここをジャーナリズムにも変化のきざしが見えてくるかもしれないし、敗北主義に骨の髄まで浸った官僚の中にも、態度をやめる動きが望めるかもしれない。斎藤美奈子

◆斎藤美奈子:文芸評論家、青山83期。
◆森 達也:doc作家(映画、TV)、青山83期。ふたりは同級生。

森達也監督◆「新聞記者ドキュメント」 東京新聞記者望月衣笠子氏を「泣かせたかった」 ～勝負の行方は「完敗」～ 2019.11.4 [映画.comニュース]

第32回東京国際映画祭の日本映画スプラッシュ部門に出品されたドキュメンタリー「新聞記者ドキュメント」が11月4日、東京・TOHOシネマズ六本木ヒルズで上映され、出演した東京新聞記者・望月衣笠子氏、メガホンをとった森達也監督が舞台挨拶に登壇した。

映画「新聞記者」の原作者としても話題を集めた望月氏を追った社会派ドキュメンタリー。望月氏との姿を通して、日本の報道の問題点、ジャーナリズムの地盤沈下、そして、日本社会が抱える同調圧力や忖度の正体について、「シネコンとは、ほとんど縁がない監督だったので、悪夢を見ているような、天にも昇るような……非常に落ち着かない気持ちですが、同時にとても嬉しいですし」と感慨深げな森監督。「よくぞこの映画を、東京国際映画祭で上映するという決意をしてくれた。矢田部(吉彦)さんの決断——色々責任問題になるとは思いますが」と感謝を示していた。

「あいつトリエンナーレ2019補助金不交付問題、映画「宮本から君へ」助成金不交付問題、そしてKAWASAKIしゅり映画祭2019での「主戦場」上映中止問題(現在は上映中止を撤回)の話題を絡めて挨拶した望月氏。「伝えたいこと、変えなくてはいけないのだから」と思うことを、ひとりひとりが自身で問いて、気づくことで、少しずつ社会や政治が変化していく。映画がそのきっかけになっていければ」と作品への思いを吐露した。また、森監督について「全米バツの描き方じゃない、非常に多面的な見方をされる。マルチ主義のなかで「個」を埋没させてはいけないというテーマを一貫して追ってきた方」の私色々々面を出すために「仕掛け」をしてる。若干「怖い」という気持ちは常にあつたという印象を抱いていたようだ。

一方、森監督は「望月氏を1回は泣かせたかった」と告白。「でもなかなか泣かなくて。最後に目録を無理矢理渡して撮ったんですけど」なんでもこんなことをしなきゃいけないの? という顔をされるので、全然使えるカットじゃなかった。色々手を尽くしたけど、僕のやり方は通用せず。完敗しました」と振り返っていた。質問タイムで際立ったのは、森監督の回答だ。質問者に対して「あなたはどう思いましたか?」(質問者の回答を受けそれが正解です)と切り返す。「映画を見た瞬間に、皆さんも僕も、それぞれが色んなことを思い、色んなことを考えればよい。僕も皆さんの意見を受けて発言することもある。だからこそ、シーンの意味は口が裂けても言いたくない。ごんごん質問していただいているですよ。かわしますから」と答えていた。

「映画を見た後に、何かアクションを起こしたいと思う?。しかし、対するものが大きすぎる。私たちは何をしてほしいのか?」と問いかけた望月氏は、「私が嫌がらせをされ続けながらも、会見に向かうことができるのは、日々会社に届く電話、FAX、応援のメールのおかげ」と説明。「それが結果として編集局長、局長の目に留まる。「もつと声をあげ、質問をし、記事を書いてほしい」という市民や視聴者の声がある限り、それを無にするとはできない。『あいつの背中を押している』という判断となり、会見に行かせ続けるという判断になったんです。これ院激励の声がかつたから『質問をしてみよう』と踏み出せるきっかけになった」と思いの丈を述べていた。

やがて、森監督は望月氏に投げかけられた「これから「空気」を読まないでください」という観客のメッセージを引用し、中国メディアの取材を述べ、「『中国メディア』の話を要約すれば『中国は、共産党の影響で言論が不自由。国民はその事実をわかっていない。しかし、日本は共産党のような存在はないけれど「空気」が、それを支配している。そして、ほとんどの国民が気づいていない。そこが大きな違い』というの。『空気』を作っているのは誰か? 僕たちですよ。最初はこんな場所でも上映できるとは、思ってもなかった。でも、やればできるんです。100%ではないかもしれないけど、言えば形になる。もつとそれがままに、自由に、言いたいことを言う、やりたいことをやる——それが、ちよつと足りぬんじゃないかな」と語っていた。



森達也 監督

(望月衣笠子)

森達也

斎藤美奈子

新聞記者

年会費納入者一覧;2019.4.1~2020.3.31 現在

本会は、皆様の年会費で運営しております。ぜひ、納付のご支援ご協力をお願いします。

第50回(2名)
上村光司
村山 一

第52回(3名)
小嶋嘉彦
齋藤泰五郎
廣川 勲

第53回(2名)
中島常雄
堀 時男

第56回(5名)
赤坂長弥
網干道雄
井上菊雄
加藤勝則
皆川正男

第58回(3名)
浅田秀雄
片桐欣哉
福田 満

第59回(12名)
梅沢貞雄
岡田 久
笠井 駿
小池和男
小林栄作
小村幸久
茂泉喜彦
関野光弘
高橋晴夫
高山昇二郎
長橋敏雄
納谷喜郎

第60回(9名)
金山常吉
小林吾郎
杉野剛博
高城英雄
長谷川秀三
早川貞夫
藤本 剛
丸山敏視 #1
丸山敏視 #2

第61回(17名)
安宅久憲
安藤友憲
草間光俊
熊谷隆幸
小林孝司
小林元雄
小山達人
佐藤敏夫
杉山由人
杉川孝雄
竹尾 昇
田中 宣
徳田晋也
長沼雄峰
中村正春
村岡公夫
村山 健

第62回(11名)
石黒 恒
内山隆之
小池健治
近藤哲朗
鈴木 勉
曾我 健
手換 聰
藤原寿子
嶺 國和
渡辺真英
渡辺千里

第63回(3名)
浅野康一
市川瑞夫
馬場政説

第64回(22名)
青野 啓
岩瀬道夫
植村頼音
牛木容三郎
江部陽一
大石正晃
大倉孝男
太田健治
風間治雄
坂井俊一
佐藤茂司
清水良男
須田嶺治
高橋正幸
田才邦彦
田辺元彦
田村康一
藤澤清郎
星 満
真壁 日史郎
松田 勲 3
榎湯晴夫

第65回(7名)
安藤宜清
五十嵐徹
川合英次
鈴木衛士
濱田庄市
村木利夫
山本和親

第66回(5名)
石山芳春
菊池重治郎
高橋 守
二宮靖彦
吉田六左工門

第67回(10名)
石井幹男
岡崎 功
小野勝義
片山忠一 3
北村紘一
清水雄伍
寺井宏
西 章
前田康久
三堀 浩

第68回(8名)
上村嶺子
草野 佐
小日向信光
重野康人
竹石 肇
長沼誠二
渡邊千鶴
渡邊泰彦

第69回(5名)
青木利祐
小黒朋弘
佐藤孝靖
高木敏之
矢川一義

第70回(4名)
池田好正
猪口 孝
菅原一雄
渡辺美那実

第71回(9名)
内山博勝
太田 裕
柄沢 卓
高橋 稔
西尾レノ
堀 清忠
堀 清忠
松田裕子
宮村達男

第72回(19名)
宇田川由美
金巻裕史
神林賢治
黒木トシ子
小嶋修一 #1
小嶋修一 #2
小林正昭
近藤 正
齊藤俊正
篠原一博
島村礼子
菅又 滋
富田由李
中地光子
◆西村正徳◆
(5年分~2021)
野村耕治郎
高山恒夫
宮村 晋
横堀 弘

第73回(5名)
飯村 修
田辺研吉
山田美成 #1
山田美成 #2
高川弘道

第74回(38名)
藍沢幹人
青海 潔
味方 冽
安藤京子
池 一
池田正行
池田 裕
石山 范
和泉 潤
伊藤 宏
井上裕子
岩城修平
薄田祥子
大石憲一
大滝 均
◆岡村康生◆
(5年分~2022)
加藤 博
◆川田澄子◆
(5年分~2022)
菊池 隆
工藤義夫
解良和郎
小林淳子
坂井 靖
坂爪久男
佐藤信秋 3
佐藤正也
島津満里子
関川修一
高橋 保
高橋信郎
田村栄作
土屋彰義
西田百合子
沼脇雄一
沼田 清 #1
沼田 清 #2
原 信一
萬歳英美子
渡部終五

第75回(15名)
有箇順子
五十嵐正
笠井 忠
川上 滋
木戸 守
小泉慈行
白鳥十三
鈴木正夫
高木久夫
高橋爪博美
服部 昭
馬場俊博
萬歳信行

藤井建一
藤縄利勝
青山耕一
明村澄雄
浅妻 厚
阿部合一
阿部緑生
天野直二
坂場 健
岩橋俊朗
大竹力三 4
尾張明美
加澤正樹
加野裕資
賀谷彰夫
木下正仁
後藤徳広 #1
後藤徳広 #2
小宮山信男
近藤壽邦
指田久美子
鈴木隆雄
鈴木茂夫
竹内輝義
田中邦直
太原まゆみ
中川英二
長北 学
西沢芳樹
長谷川邦良
八田進二
林 誠
浜田正継
古川恒一
丸山俊夫
湊 勝
湯本雅恵
渡辺 拡
渡辺雅夫

第76回(38名)
青山耕一
明村澄雄
浅妻 厚
阿部合一
阿部緑生
天野直二
坂場 健
岩橋俊朗
大竹力三 4
尾張明美
加澤正樹
加野裕資
賀谷彰夫
木下正仁
後藤徳広 #1
後藤徳広 #2
小宮山信男
近藤壽邦
指田久美子
鈴木隆雄
鈴木茂夫
竹内輝義
田中邦直
太原まゆみ
中川英二
長北 学
西沢芳樹
長谷川邦良
八田進二
林 誠
浜田正継
古川恒一
丸山俊夫
湊 勝
湯本雅恵
渡辺 拡
渡辺雅夫

第77回(6名)
片山 等
北村一雄
佐藤 茂
時岡高志
長谷川 実

第78回(12名)
石丸隆夫
大田秀樹
斎藤康之丞
志藤洋子
篠田敏朗
須田幸子
高井博英
滝沢道夫
肥田博子
松田元男
村田光男
吉澤哲彦

第79回(10名)
伊藤 毅
内山 修
小田章治
河 正子
川上康夫
小池康義
鳥羽正尚
富山浩司
林 綾子
丸山直員

第80回(6名)
青木隆次
大霜博之
長 正子
小林亮介
清水洋一
竹本泰子

第81回(5名)
荒川 洋
越野昌芳

成海孝二
山田 徹
鰐淵博

第82回(8名)
柴森秀一
小亦 斉
日下部朋子
佐藤泰彦
内藤 理
西山活子
福嶋 元
宮村伸一

第83回(8名)
浅間芳朗
遠藤光郎
佐藤 扶
佐野栄二
高山佳郎
野呂咲人
山口彦彦
横山 修

第84回(11名)
赤塚徳子
太田淑子
唐澤亜弥子(5)
小島秀子
島津 孝
田崎正巳
田中昌夫
野口俊介
埴昌樹
星野郁夫
◆星野紹英◆
(50千円)

第85回(10名)
浅田浩義
荒井裕子
今井豊重
奥村基
澤井伊知子
澤井伊知子
塩田拓哉
苦米地令
吉田真吾
渡辺友紀子

第86回(3名)
斎藤 健
宮腰重三郎
吉井正行

第87回(3名)
清水忠明
南 正人
渡辺政城

第88回(3名)
今井信一郎
榎谷洋史
小竹 聡

第89回(6名)
岩野尚子
神子尚子
小山信也
広川孝
山田敏昭
渡邊克彦

第90回(17名)
雨夜喜美子
歌代真人
歌代幸子
勝山達志
木村和人
小林 到
小林比呂美
小林美奈子
斎藤 彰
斎藤結花
白川 裕
坪井俊樹
中村 泰
原 茂樹

樋口正史
森 豊
渡辺修也

第91回(1名)
長田 充

第92回(3名)
石田良介
白坂和久
前田光俊

第93回(3名)
猪股俊也
近貴志
佐藤賢一

第94回(5名)
阿部紀世子
塚田信弘
野崎雅恵
藤沢健司
吉原正毅

第95回(1名)
山崎健太郎

第96回(1名)
浜田恒平

第99回(1名)
君和田俊裕

第100回(1名)
佐藤直仁

第101回(5名)
阿部智信
小田和哉
折笠智則
片桐朋美
鈴木由貴子

第102回(1名)
尾口優子

第103回(1名)
鷲尾英一郎

第104回(4名)
荒 貴博
佐藤 晃 #1
佐藤 晃 #2
丸山道則

第105回(2名)
成澤 良
柳通こずえ

第109回(1名)
駒形 悠

第110回(6名)
石崎 徹
後藤啓太
酒井優理子
高橋京子
帯刀 亮
平野朋子

第113回(2名)
佐藤あずさ
関 佑樹

第117回(1名)
榎本飛鳥

第118回(2名)
会田俊貴
和田直子

第122回(3名)
加藤 爾
斎藤一樹
田中麟太郎

第123回(1名)
五十嵐 将

第124回(2名)
寺井 悠
瀧谷美月

第126回(2名)
伊藤壮史
長浜朱音

第127回(15名)
(参加者掲載、クラス順)
田代紅絹
中川大喜
横山太紀
渡辺真子
須貝優貴
江川優花
菅野紀希
石附夏子
柳澤広登
高波海斗
川出爽太
北上晃太郎
大滝一朗
佐藤健介
松永幸哉(4)

(注;新人は総会納付分を年会費として計上した)

御礼◆年度実績◆
・計(2019.4.1~2020.3.31)
・延人数 414名
・納付額計 963千円

◆当初目標◆
450人/900千円

目標 450名!
当同窓会は皆さまの「年会費」によって運営しています。年会費納付のご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

■ 会員ご訃報 ■
R1.10~R2.3月までに事務局にお知らせいただいた方々です。心よりご冥福をお祈り申し上げます(敬称略)。
福田 満さん逝去
2019年11月11日(88歳)
東京青山柔道倶楽部顧問。
<2019.6.21 総会>
(青山58回卒)
★ 2019年6月21日の本同窓会・総会兼歓迎会にはいつものようにお元気に出席され上梓したばかりの著作を手話された。
これが柔道!
<2019.6発売>

東京◆歴代会長◆



<参考> 青藤英四郎/36名譽会長のみ 1987~2002歿



初代:山内保次 7期 2代:早山洪二郎 28期 3代:山添直 30期 4代:木村逸郎 30期 5代:山崎重三郎 34期 6代:南学正時 40期 7代:斎藤伸雄 44期 8代:栗林貞一 59期 9代:猪口孝 70期 10代:佐藤信秋 74期

★東京青山同窓会ヒストリア(総会・会報・役員など)・・・1965=S40年 東京同窓会発足～現在・・・★ (編:工藤義夫/74期)

Main table with columns: 創立, 西暦, 和暦, 会報No, 発行月, 会長, 副会長, 幹事長, 会計幹事, 事務局長, 会場, 参加者, 同窓会, 備考. Contains detailed history from 1965 to 1982.

延期へ:コロナ禍

820(土)昼:卒園ル一方式へ

母校100周年講演:斎藤英四郎36前・経団連会長 題「所感:～昔・今・これから～」1992.10.17 ... 豊かな心と広い愛を持って大いなる人になれ...

東京会報12号から2号... 捜索中

東京会報発行以前(青山会報等から収集)

東京会報発行・第1号◆

S82.1発行青山同窓会名簿◆

東京青山同窓会編纂:山崎重三

若手学年幹事制。本部:鎌倉会長/松浪先生/岩田事務局長、山崎氏青山会報、建川栄次・陸軍中尉(義教)「思い出ず人」

中止:公労協込込退社/150名出席予定

山崎幹事長:青;同窓会は無なる脚燈の老クマ?でなく、老壮育で社会経済文化向上させぬの発展を

◆初総会:S41.11.18

◆東京青山同窓会～発足～◆

◆青山同窓会・元年:校舎焼失復興

◆創立元年:県立新潟中学校発足